



幸せな贈り物

お金愛

すべての悪の根

学費のために処女を売ります

最近、政府の学費引上げ方針に対する反発が強い英国で、ある女子大生が学費を用意するために処女を売ると明らかにして英国社会が論議に包まれました。英国日刊テレグラフは、この女子大生が昨年12月26日学生たちが愛用するウェブサイト、ザ・チューデントルーム www.thestudentroom.co.uk に匿名で「処女を売ります」Considering selling virginity というタイトルの文を載せたと伝えました。社会科学系列の専攻と見られるこの学生は、自分を有名大学に通う1年の学生だと紹介して「これから3年間、私の大学の授業料を支給する条件で処女を売る」と知らせました。彼女は「私の家はそれほど裕福でないために、私がさらに多くの機会と選択を持てるように学業を継続するためにお金が必要だ」と言いました。また、自分を魅力的でスマートで、金髪できれいな容姿だと紹介して、自分のボディーサイズも明らかにしました。一方、テレグラフは2004年ブリストル大学に通うロッジ・リードという女子大生が実際にイーベイ競売を通して、8,400ポンド（約110万円）で処女を売ったことがあると伝えました。また、中国人民大学に通うスジジ(19)という女子大生は、難しい家庭環境のために学費負担が大きくなって、校内で自分のヌード展を開いて「裸インタビュー」までした事実が知らされて、熱い論議を呼び起こしています。こうした中、昨年4月900万ドル（約

7億5千万円）の身代金を支払って、ソマリア海賊に拉致されて216日ぶりに解放された三湖(サムホ)ドリーム号事件に続き、また再び人質の身代金を狙って三湖(サムホ)ジュエリー号が拉致されました。国際海事局IMBによれば、現在、船舶28隻と660人がソマリア海賊に拉致されていると推測されているなかで、英国日刊インディペンデントは、人質産業hostage industryは延べ売り上げ規模が10億ポンド（約1300億円）に達し、ますます繁盛する産業だと明らかにしました。その一方、若い一流女子大生で、ルームサロンで最高の待遇を受けているという別名「テンプロ」が堂々とテレビに出て、1ヶ月最高収入が2千万ウォン（約150万円）で、ルームサロンに来る苦しんでいる人に暖かいもてなしをするのにやりがいを感じると、堂々と明らかにして、多くの非難を受けたりもしました。2008年10月、韓国トランスペアレンシー・インターナショナルが韓国国内の中・高校生1千100人を対象に行った反腐敗認識調査結果によれば「私は監獄で10年暮らすとしても、10億ウォン（1億円）を儲けられるならば腐敗を行える」という項目に17.7%が「そう思う」と答えました。お金のために起きる親と子ども間の殺人事件、学費が必要であるために300万ウォンの借金をしたある女子大生が、年利430%の悪質業者の罠にかかって、結局、遊興店に売られ、この事実を知るようになった父が代わりに返す能力がないこと

を嘆きながら、娘を殺して自分も首をつって自殺したというニュースと合せて、212人から年120~680%の利子を取り、これを返すことができない女子大生を遊興店に強制的に就職させて、33億ウオンを強奪したグループが捕えられたというニュースまで、今はお金のために起きるぞっとする話に、私たちの周辺で簡単に接することができます。鋼鉄王アンドリュー・カーネギーは、貧困を越えて成功したあと、「人間がお金だけあるならば人生の問題の中70%は解決することができる」と話しましたが、今日の人間は、お金の奴隷になって、さらにおそろしい事をためらいもなく行っています。「罪人」という人間の身分が変わらないひとりの人間は、やむを得ず「罪の奴隷、お金の奴隷」として生きていくしかないのでしょうか。

どのようにすれば良いのでしょうか

幼いころは、お金が多い金持ちになれば本当に幸せだろうという考えをよくしていました。幼いころは、幸せの基準が肉体的で、世的なものがすべてであるように見え、お金をたくさんもうけて成功すれば、みな幸せだと思っていました。また、福音をよく知らずに、なんとなく信仰生活をしていた時には、神様のほかにも幸せがたくさんあるように思えました。しかし、神様に会って、福音を知るようになり、考えが変わるようになりました。

神様に会うことができない人間は、どんなものを持って味わっていても、真の幸せがないということです。瞬間的な快樂や満足感、平安はしばらくの間、あるかもしれませんが、永遠な真の幸せ、真の安らぎ、真の喜びは、神様を知って神様に会う時にだけ与えられることです。本当に一生使ってもみな使えないお金を持っているのに、どこに出しても他の人をうらやましく思う必要がない名誉と権力を持ったのに、最高の学閥ですばらしい知識を持っていて、みんながうらやましがる美貌と健康を持っているのに、その人自身は、幸せがなくてさまよって、困難な目にあいながら苦しんでいる人々をたくさん見えました。そうではないように、問題はないように、

幸せなように、みんなもっともらしく包装しているのですが、事実、その内面は他の人々に話せないいろいろな苦しみでくずれていきつつあるのです。赤ん坊の時、あるいは幼い時に海外に養子縁組されて行った子どもが成人になって、自分を捨てた祖国と親がうらめしいと同時に懐かしくて、故郷を探す姿を見ると、仕方がない本能的な部分ではないだろうかと思うようになります。

私たちの人間は、肉体的なものだけでは生きられない霊的な存在で、神様に会ってこそ真に幸せになるそのような存在です。それで、神様を離れて願ってもいない罪と呪いと苦しみの中で、サタンに縛られている私たち人間を救うために、イエス様が来られたのであり、その方は聖書で預言されたとおり、女の子孫として来られ、十字架に死んで復活されることによって、私たちの人生のすべての問題を完全に解決されたのです。そして、だれでもこの事実を信じて、その方を主人として受け入れるようになれば、神様の子どもになって救われるので、真の幸せを味わうようになります。あたかも子どもが家を出て苦勞して自分の家に帰ってきて休むときに感じる平安のように、道に迷って泣いていた子が母親を見つけて、そのふところに抱かれるときに持つ安堵感のように、そのような根源的な幸せです。

イエス様はキリストです。真の王として来られサタンのすべての権威を打ち砕かれて、真の預言者として来られ神様に会う道を開いて下さり、真の祭司であるために私たちのすべての罪の問題を解決してくださいました。このキリストを私のキリストとして、私の主人として信じて受け入れるとき、罪人の身分が変わって、神様の子どもになって、世の中の何によっても得ることができなかった真の幸せが始まるようになるのです。この驚くべき救いの祝福の中にいま、みなさんを招待します。「主イエスを信じれば救われます」あなたは大切な人です。

「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」のです。

(ローマ人への手紙 10:13)

感謝は幸せを もたらして...



「家が美しいのは、その中に人を含んでいるためです」この前のTV広告に出てきた広告コピーを考えるとなぜか分からない温もりが感じられます。人間が幸せは、どれだけ所有したかという以前に、その心になにを抱いているかにしなごって変わるでしょう。オーストラリアのニック・ブイチッチ (Nicholas James Vujicic) という青年は、生まれた時から両腕と両足がない障害者です。『ニック・ブイチッチとその Hug』が最近、話題になっています。この Hug とは「抱く」という意味

です。彼はたとえ一般人とは違ったからだの状態であっても、自分の限界をありのまま抱いて、一歩進んで他の人を抱き (Hug) しながら、彼らに驚くべき希望を植え付けました。絶望を希望に、失敗を機会に、限界をビジョンに変化させる力を与えているのです。

事実、彼も自分の状態を悲観して8歳から3度も自殺を試みていました。しかし、両親とともに信仰の力で絶望を勝ち抜いて、15歳に神様に人格的に会うようになりました。それからのち、一般人とともに学校に通って、大学を卒業して、今は世界を回りながら、希望の伝道師として福音をあか

しする使命を果たしています。彼は「神様はたったの一瞬も、私をあきらめられたことはありません。それで、私も自分自身をあきらめなかったのです」という話をしました。否定的にあきらめてしまえば、はてしなく落ちてしまったでしょうが、彼はそうでなくて、自分に向かった神様の驚くべき計画を胸に抱きました。自分に与えられた状況に対して、むしろ感謝できる霊的レベルになって、現在は、全世界的で用いられています。みなさん!ひょっとして、今、現実の困難ゆえに絶望の中にいませんか。神様がみなさんをあきらめられることはありません。ですから、みなさんも、まだ人生をあきらめる時ではないのです。どんな状況の中でも感謝する体質になってください。聖書は「あなたがたのすることは、ことばによると行ないによるとを問わず、すべて主イエスの名によってなし、主によって父なる神に感謝しなさい」(コロサイ人への手紙3:17)と語っています。生活自体が感謝になるとき、驚くべき変化の力が生まれます。私たちが感謝しながら生きていく理由は何でしょうか。イエス様がキリストとして来られて、人間のすべての問題を解決されたためです。このイエス・キリストを生活の主人として受け入れるとき、みなさんを押しえつけて困らせるすべての問題が解決されるでしょう。今日、イエス・キリストを生活の主人としてお迎えして、永遠な祝福を味わってください。今あなたの人生の真の主人は何ですか。主人が変われば運命が変わって、運命が変わればすべての幸せの門が開くようになります。信仰はその門をあける鍵で、感謝はその幸せを味わう近道です。

「何事かを自分のしたことと考える資格が私たち自身にあるというのではありません。私たちの資格は神からのものです」

(コリント人への手紙第二 3:5)

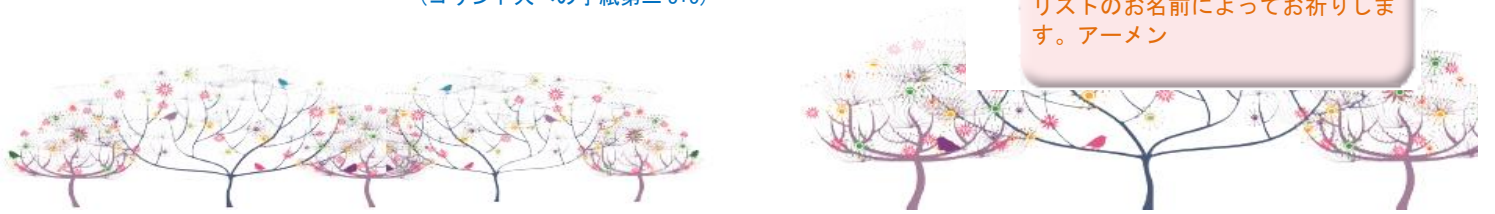


神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。
私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してください。信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかさされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



イラスト—
シン・チョンウン

私はどのように しますか？

古代インドのある王が権力が強くなったが、老いるのを止めることはできないと知って、自分が後に入る墓をととも格好良く飾りたく思った。なぜなら、それでこそ、自分の力が永遠まで持続するという気がしたためだ。ちょうど二つの国から捕えてきた最高の技術を持った石工を呼んで、自分が入る墓の両側の石の壁面をそれぞれ提供して、1年のうちに最高の彫刻をしると言った。1年後に最高の作品を作ったひとりにはすばらしい賞を与えるが、そうでないひとは自分といっしょに墓に入るようになると言い、進行するのに必要な全てのものは無制限に供給されると言った。この二人は、生きるか死ぬかの分かれ目に立つようになって、自分たちの技能を総動員して一世一代の素敵な作品、すなわち、自分のいのちの代わりをする作品を準備するようになった。片方の壁面を引き受けた人は、壁面の構図をとらえて絵を描いてみて、いよいよ道具をもって浅く掘り始め、深く掘っていきながら、雄壮で細かい彫刻を作りあげていった。反対側の人も負けることができないう姿勢で壁面を整理したが、まったく仕事はかどらないで、壁面をずっと磨きあげるだけだった。いよいよ約束した日になって、王と臣下たちが王様の墓を見ようとやってきた。片方の壁面で彼らは雄壮な作品の前に圧倒されて、かえって死んだあとのほうがより良いと思えるような錯覚を起こしたりもした。そうして、反対側の作品を見ようと背を向けたが、それは目を疑うしかない美しい作品が

位置していたのだった。ところで、詳しく調べてみたら、それは前面の壁面と同じ作品だった。さらに、詳しく見ようとして、壁面を触ってみたら、それはでこぼこした彫刻ではなく平面であった。知ってみたら、片方の人は彫刻をして、もうひとは鏡を作って、前の作品がそのまま見られるようにしたのだった。賢い石工は、必ずひとりが賞を受けるか、必ず死ななければならないという事実の前で、お互いに言い訳をしないで、王にも最高の作品を二つも持てるようにしたのだった。王は最高の作品を作った人に賞を与え、また知恵をもって自分も生かし、王に最高をプレゼントした石工にも賞を与えたという。

人が生きていく世の中で、多くのことが起こるとき、賢い人はすべての原因が自分にあると思う。ときには、環境が悪くなくて、痛くて裂けるような苦しさがあっても、原因は自分のせいだと感じるのだ。そのように見れば、他の人の誤りまでも私のせいだと思う大きい考えをするようになって、結局、責任を負う者である指導者の徳性を持つようになるのだ。罪を犯さなかったが、人間の罪を代わりに担おうとする人間イエスの十字架の死は、罪をなくしたい人間の欲求を完全に解決する唯一の道になる。そのひとり子イエスの血が、私たちをすべての罪をきよめるといふ約束あるみことばは、これ以上、私たちが罪のために悩まなくても良いいのちの祝福になるのだ。どうせひとりが死ななければならないというときに、その死を知恵で迎えたインドの石工のけなげさのように、人間である私たちが選択するしかないただ一つの方法がキリストの血を通した神様に会う救いならば、私はどのようにするだろうか。

チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

*相談したい方はこちらまでどうぞ